

# 図書だより

## My Favorite Books

令和3年 7月号  
三島高等学校 図書委員会

今回は、**長井 郁夫**教頭先生 です！！

Q簡単な自己紹介をお願いします。

松山商業高校から異動してまいりました、今治市（旧：朝倉村）出身です。教員生活30年目を迎えます。これまで東予・中予・南予と県下すべての地域に赴任してきました。今治より東の学校への勤務は、今回が初めてです。担当教科は商業科で、これまで主に「情報処理」「プログラミング」「簿記」等を担当してきました。まだ三島高校に慣れないところもありますが、勉強に部活動に一生懸命に努力している生徒たちと、共に成長していきたいと思っております。



Q学生時代に感銘を受けた本、皆に読んでほしい本を教えてください。

高校時代の読書経験は皆無に等しい状況でした。最近読んだ本ですが、働き方改革が叫ばれている今ならではの「なぜあなたの仕事は終わらないのか」（中嶋悟氏）です。この本は、時間管理の仕方や日々の作業を効率的にこなすための方法など、時間の使い方について説いた本で非常に勉強になりました。おかげで、今「本を手にする『ゆとり』」ができました。

Qみなさんに読んでほしい本を教えてください。

次の二つの文章は、いずれも愛媛新聞欄からの抜粋です。

「私は読書が好きで年間150冊ほど読む。図書館という素晴らしい施設のお陰で、お金の心配もなくありがたい。（中略）いろいろなことが私の頭にも少しずつ蓄積されていく。実社会で即通用することばかりではないが、理解する過程、知る力を味わうという点で大変有意義でプラスになる（中略）人生の師匠、参考書ともいえる読書。寒い時期ではあるが時間があれば読書をお勧めしたい。」

「ある統計によると、本を全く読まない人は全国で平均37%だが、四国では61%だということで驚いた。一日も本を読まずにいられない私にとっては信じられない数字である。私が本ばかり読んでるので、二人の子供たちも本好きになったのは嬉しい。どうか大人になっても読み続けてほしい。本は（中略）人間性を持っている。悩んでいるときに勇気づけてくれ励ましてくれる。ありがたい友人でありカウンセラーにもなってくれる。だから一人で本を読んでいても一人ではない。」前者は今治市のYさんの「読書は人生の師匠・参考書」、後者は大洲市のNさんの「本は私を励ましてくれる友」と題する文章です。私が多くを語らずとも皆さんには読書の意義がこれで十分理解できると思います。

みなさんに読んでほしい本というよりも、みなさんが手に取った本が今読んでほしい本です。

Q三高生に一言！

ある著名人が、「人生にはなくてはならない重要なものが三つある」。それは「真の友、恩師、愛読書である」と明言されました。皆さんは高校生ですから、まだこれからという要素もありますが、親友や恩師など相手のいることは別にして、愛読書は自分の心掛け一つで手にすることは、それほど難しいことではありません。今日以降の高校生活の中で、大いに参考にしてほしいと思います。

長井 郁夫教頭先生、ありがとうございました！！

課題図書 今年度の読書感想文の課題図書が発表されました！！

『水を縫う』 寺地 はるな 著



「男なのに」刺繍が好きな弟の清澄。「女なのに」かわいいものが苦手な姉の水青。「愛情豊かな母親」になれなかったさつ子。「まっとうな父親」になれなかった全と、その友人・黒田。「いいお嫁さん」になるよう育てられた祖母・文枝。普通の人なんていない。普通の家族なんてない。世の中の“普通”を踏み越えていく、6人の家族の物語。

『兄の名はジェシカ』 ジョン・ボイン 著 原田 勝 訳



4歳年上のジェイソンは、14歳のサムの子供の自慢の兄だ。穏やかで優しく、忙しい両親にかわって、小さいときからサムの面倒をよくみた。サッカー部のキャプテンで、学校ではみんなの人気者。だけどこのごろ、少し様子が変わったみたいだ。ジェイソンはある日、自分はトランスジェンダーであり、男であることが耐えられない、と家族の前で告白する。大好きな兄の変化にサムはとまどい、閣僚の母親、その秘書を務める父親はうろたえる。おりしも現首相が退任し、サムの母親は有力な次期首相候補になるはずだったが、ジェイソンのことがマスコミに取り上げられるようになり……。

『科学者になりたい君へ』 佐藤勝彦 著



「どうすれば科学者になれるのか」？研究生活、論文、ノーベル賞、科学の面白さ……日本の科学研究を牽引した著者が実例を交えて案内する。科学を見る目がガラッと変わる、全ての人に必読の書！

夏休みの図書室開館日

7月21日(水)～30日(金)、8月18日(水)～24日(火)  
・土日と中学生一日体験入学日を除く  
・15:00まで

